

教 育 研 究 業 績 書

2025年 5月 1日

氏名 金 昌 震

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
1. 日韓の少子化と子育て支援	1) 韓国における少子化と子育て支援に関する調査研究。 2) 韓国の保育・子育て支援の実態と対策について調べる。 3) 少子化が深刻化する韓国の少子化対策としての子育て支援について考察。 4) 地域における共助としての子育て支援の可能性と公共性の形成にどのように影響し合っているのかを調査研究。
2. 東アジアの高齢化と高齢者のウェルビーイング	1) アクティブな高齢者が活躍する東アジア諸国から日本社会のウェルビーイングを考える 2) 韓国の高齢者生活実態と地域福祉支援の取組みを調べる。
3. 地域社会と若者の自立支援	1) 日韓におけるひきこもりの実態と政策の比較。 2) コロナ禍での社会環境の変化によるひきこもりの増加の実態把握。 3) 日本と韓国のひきこもり支援センターでのインタビュー調査。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 学生属性による動機づけと授業設計	令和5年4月 ～現在	北海道看護専門学校の「地域の社会学」は、保健師助産師看護師学校育成所指定規制の基礎分野「人間と生活、社会の理解」に対応する科目と位置づけられる。授業内容を説明する際には、医療現場においてどのように活用することができるかを、具体的な事例や事件などを示すことで学生の興味関心を高めた。また看護師に求められる社会学の知識を看護師国家試験の過去問題と関連付けながら説明することで学生の講義への集中力が保つことができた。
2) 活動型学習の導入によるアクティブラーニング	令和2年4月 ～令和5年3月	札幌大学女子短期大学部「韓国語」講義は多くの受講者を対象にした大規模な講義で、個別指導が難しい。そこで、アクティブラーニングの要素を導入し、受講生全員が参加できる形式の授業を提供した。授業中に学んだ言葉や表現を、クラスメイトと活用する時間を設け、実際にコミュニケーションをとる機会を増やした。また、ゲームを活用して、学生たちが講義室内で自由に移動しながら学んだ言葉を繰り返し使用できるような授業を実施した。
3) 双方向講義の実践 (事前アンケート、ディスカッション、グループワークの活用)	令和5年4月 ～現在	千歳科学技術大学の「人と社会」では、ガイダンスを実施するとき、学生から事前アンケートを取る。これにより、学生が授業で期待する内容や取り上げて欲しいトピックを事前に把握し、そのニーズに答えるカリキュラムを一部編成する。また、講義の最後に提示される課題を個人とグループの2つに分け、学生同士の積極的な意見交換を促進した。双方向のコミュニケーションを奨励するため、学生同士のディスカッションやグループワークなどを積極的に導入し、多様な意見と考えが交流できる授業を実現した。
4) レポートの効果的活用とそのフィードバック	平成28年4月 ～現在	北海道科学大学の「比較社会論」(専門教育科目、3年生、後期)では、履修する学生に対し、期末レポートを論文形式で作成し、その内容を発表する機会を提供した。発表の際には各学生にコメンテーターを指定し、質問やコメントを通じて積極的なディスカッションを促した。また、論文形式の作成に関する様々な側面に焦点を当て、問題点や論理展開、参考文献の書き方、引用の方法、図表の挿入など、論文執筆に関連する基礎的なスキルや注意点についてフィードバックを提供した。このアプローチにより、学生たちはレポートや研究論文の執筆と発表に関する実践的なスキルを向上させる機会を得た。

事 項	年月日	概 要
5) レジューメ活用と視聴覚教育技術の利用	平成31年4月 ～現在	北星学園大学「国際・比較文化論」の講義内容（概念・理論）をより効果的に説明するため、教員独自のレジューメを資料として配布した。講義は通常パワーポイントを使用し、視覚的な要素を活用するスタイルで行う。また、講義内容に合わせた映像資料を選定し、学生が映像を見ながら説明を行うことで、学生からわかりやすいという好評を得た。この方法により、レジューメと視聴覚教育技術を活用して、学生たちに複雑な概念と理論をわかりやすく伝えることができた。
2 作成した教科書、教材 1) 『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』	平成29年3月	少子高齢化が急速に進行する韓国・中国・台湾をとりあげ、それぞれの国がこの課題の現状をどのようにとらえ、どのような社会保障と社会福祉の枠組みによって解決しようとするかを地域福祉の観点から考察した。まず各国の社会保障と社会福祉の概況を説明し、次に各国の社会保障と社会福祉政策がどのような経緯で発展し、現在の政策の動向にいったんのかを歴史的な観点から分析した。最後に、各国が直面している福祉の課題を取り上げ、今後の社会保障と社会福祉について展望した。第2章「東アジアの福祉と家族」(pp. 23-50) 櫻井義秀編、 <u>金昌震</u> 、郭莉莉（北海道大学出版会）
2) 『アンビシャス韓国語入門編』	令和3年8月	韓国語の学習を通じて「国際的に活躍できる人」になってほしいという願いを込めてテキストの執筆に取り組んだ。本書は大学や高校で初めて韓国語を学ぶ学生が、韓国語の文字や発音の基礎を学び、簡単な日常会話のトレーニングができる、シンプルかつ機能的なテキストである。ハングルが持つ本来の音をしっかりと学んで、実際の会話における発音の変化にも対応できるように構成されている。また、韓国という国への興味・関心、韓国語を学ぶ楽しさを高めていくために、社会・文化・歴史の話題を「コラム」という形で紹介した。 <u>金昌震</u> 、韓然善、趙恵真（北海道大学出版会）
3) 『ウェルビーイング社会学』	令和4年9月	東アジアにおける人口変動とその問題点について東アジア諸国の高齢化速度を比較しながら高齢化の進み具合による高齢者福祉について説明した。また、「福祉レジーム」論をベースに、先進諸国の社会保障の特徴を比較しながら、東アジアの社会保障の特徴を見て行く。第14章「東アジアの高齢者扶養と社会保障」(pp. 235-252) 櫻井義秀編、 <u>金昌震</u> 、伍嘉誠第14章「東アジアの高齢者扶養と社会保障」(pp. 235-252) 櫻井義秀編、 <u>金昌震</u> 、伍嘉誠（北海道大学出版会）
4) 『東アジアのアクティブ・エイジング』	令和7年4月	韓国・大邱市における高齢者の「セカンドライフ」に焦点を当て、地域社会との関わりが主観的ウェルビーイングに与える影響を調査し、その研究成果をまとめた専門書である。高齢者が福祉施設で奉仕活動を行うことで、生活満足度やウェルビーイングの向上に寄与することがインタビュー調査から明らかになった。さらに、韓国および東アジアにおける高齢者ウェルビーイング研究の動向が把握できること、今後の高齢化対策に向けた施策の参考となる知見を提供する一冊。第2章「大邱市 アクティブ・エイジングとソーシャル・キャピタル」(pp. 39-60) 櫻井義秀・清水春基編、 <u>金昌震</u> （北海道大学出版会）
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 講義評価	令和2年4月 ～現在	札幌大学女子短期大学部、北海道科学大学、北星学園大学での講義評価は、全体の平均より高く評価された。いずれの授業でも特に、「教員は授業に熱意を持って臨んでいましたか」「教員の意欲や熱意が伝わってきた」という項目が学生から最も高く評価された。

事 項	年月日	概 要
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) コーディネーター	平成21年9月5日～9月6日	韓国の青少年活動施設における現場実習として日本の尚絅学院大学の学生を受け入れ、実習指導を行った。実習指導においては、子ども施設の概要、専門職の業務、子ども養護支援などについての指導を行った。具体的に放課後支援の方法、学校との連携、施設内で行われているプログラムの内容について指導を行った。
2) シンポジウム登壇者 (シンポジスト)	平成25年3月23日	国際ロータリークラブ第2510地区第4・5グループが主催する「新世代シンポジウム：3.11から感じた命と平和」でシンポジストとして参加し、東日本大震災の経験と被害地で行ったボランティア活動について講演した。
3) 学術通訳 (シンポジウム)	平成25年1月26日	北海道大学公共政策大学院附属センター東アジア研究所が主催するシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」は、日本・韓国・台湾・中国という東アジア地域の4つの市民社会を代表する民間研究者・言論人が集まり、この地域が直面する共通の共時的な問題を互いに話し合う。「メディア、ネット、市民社会と権力」をテーマとした第1回のシンポジウムにおいて、その内容を通訳した。
4) 協力研究者	平成25年4月1日～平成28年3月30日	日本学術振興会科学研究費「東アジアにおける宗教多元化と宗教政策の比較社会学的研究」の協力研究者として、韓国、中国、台湾の社会保障の体系と今後の福祉の課題を考察し、その成果を著書「第2章 東アジアの福祉と家族」として出版した。(基盤研究B、研究代表者：櫻井義秀、課題番号：50196135)
5) ティーチングアシスタント	平成26年4月1日～平成27年3月30日	北海道大学の社会学教員が担当する社会調査士G科目(「社会学演習」)においてティーチングアシスタントを務め、札幌市子育て支援総合センターにおけるフィールドワークを行う。参加した学生は子育てサロンの役割を理解し、調査を通して乳幼児や保護者への理解を深めた。
6) 講演講師	平成26年5月11日	札幌市で子育て支援事業を行う実践者(「札幌子育てネットワーク」)向けに、「日韓の育児・子育て支援の現状と課題」というタイトルで講演を行った。日韓の子育て家庭が抱えている様々な問題を具体的な調査事例で説明し、その解決案をともに考えた。
7) 研修講師	平成26年9月21日	独立行政法人国立青少年教育振興機構と韓国国立青少年活動振興院との交流協定事業「日韓相互交換セミナー」及び「日韓大学生討論会」の事前研修会における講師を務め、「日韓青少年交流活動の情報」・「日韓若者文化の共通点と相違点」について講演を行った。
8) コーディネーター	平成27年2月1日～平成27年2月3日	韓国の全国市郡区子育て支援センター協議会の関係者らが日本の先進保育施設を見学する目的で札幌を訪ねた。応募者は、札幌市子ども未来局の協力を得て、札幌市子育て支援総合センター、札幌市北区保育・子育て支援センターの訪問アポイントメントを取り、見学を支援した。また、日韓の保育情報交換の場では、子ども未来局長を始め、両側の円滑な意思疎通のために通訳を担当した。
9) 学術通訳 (シンポジウム)	平成27年3月1日	北海道大学公共政策大学院附属センター東アジア研究所が主催するシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」は、日本・韓国・台湾・中国という東アジア地域の4つの市民社会を代表する民間研究者・言論人が集まり、この地域が直面する共通の、共時的な問題を互いに話し合う。2000年以降に社会人になった「ミレニウム世代」をテーマとした第3回のシンポジウムにおいて、その内容を通訳した。

事 項	年月日	概 要
10) リサーチ・アシスタント(RA)	平成27年4月1日 ～平成28年3月30日	国立学校法人北海道大学の「平成 27 年度文学研究科研究プロジェクト『人文学と社会』」のリサーチ・アシスタントとして、過疎社会における高齢者福祉とソーシャルキャピタルの形成と機能についてフィールド調査を実施した。
11) 留学生チューター	平成27年4月1日 ～平成29年3月30日	北海道大学の留学生のチューターとして、研究計画書の作成指導および添削、研究調査のやり方、発表の進め方、論文執筆などの指導を行った。
12) 協力研究者	平成27年4月1日 ～平成30年3月30日	日本学術振興会科学研究費「アクティブエイジングへの社会的支援と世代間交流」の協力研究者として、幼老複合施設、共生型サービス施設（小規模多機能施設）、子育て支援施設などの調査を行った。札幌「NPO 法人在宅生活支援サービスホーム花風」（2015 年）、富山県「しおんの家」・東京都「また明日」（2016 年）、金沢市「金沢駅こどもらんど・金沢市教育プラザ」・奄美大島「一般社団法人たんぼぼ・AiAi ひろば」（2017 年）などのフィールドワークを実施し、報告書を作成した。（基盤研究 C、代表研究者：金子勇、課題番号：15K03903）
13) ティーチングアシスタント	平成28年4月1日 ～平成29年3月30日	北海道大学の社会学教員が担当する論文指導の科目においてティーチングアシスタントを務め、研究計画書の作成、文献資料の収集、論文執筆、口頭発表等に関する助言・指導に従事した。
14) 監督官	平成28年4月 ～現在	韓国語能力試験の監督官として試験会場で問題用紙配布や解答収集、試験中の不正行為をチェックするなど韓国語能力試験を円滑に進行した。
15) 研修講師	平成28年11月2日	独立行政法人国立青少年教育振興機構と韓国国立青少年活動振興院との交流協定事業「日韓相互交換セミナー」及び「日韓大学生討論会」の事前研修会における講師を務め「韓国の青少年事情」・「韓国の教育改革の流れ・キャリア教育を実行した背景について」の話題で講演を行った。
16) 講演講師	平成29年10月14日	札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークと韓国語ユニットが共催するセミナーで講師を務めた。「早く早くの中にある韓国社会」というタイトルで、韓国人のせっかちな性格の形成とその明暗を韓国の社会変動から考察した。朝鮮戦争・近代化・軍隊文化・インターネットの普及・出前文化などを説明する映像を紹介し、市民の理解を深めた。
17) 研修講師	平成29年11月11日	韓国教育部(文部科学省に該当)の傘下機関である札幌韓国教育院が主催する「韓国語教師研究会」で講師を務めた。北海道で韓国語を教えている教員を対象に、より効果的な教授法や授業のコツを分かち合った。
18) 講演講師	平成30年4月20日	北海道大学文学部社会学教室同窓会で講師を務め、「日韓における高齢者福祉とウォルビーイングの比較」の話題で講義を行った。
19) ティーチングアシスタント	平成31年1月26日 ～平成31年3月30日	北海道大学の社会学教員が担当する社会調査士 G 科目（「社会学演習」）においてティーチングアシスタントを務め、質的調査の方法（ライフストーリーインタビュー）、調査研修の計画、実施（タイのナレースワン大学・ピサヌローク）、調査分析、報告書作成等に関する助言・指導に従事した。

事 項	年月日	概 要
20) 分担研究者	平成31年4月1日～現在	日本学術振興会科学研究費「高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究」の協力研究者として従事している。（基盤研究 B、研究代表者：櫻井義秀、課題番号 19H01554）
21) 講演講師	平成31年1月26日	札幌韓国教育院主催による講演会の講師を務めた。講演は「韓国におけるお正月の伝統文化と遊び」というタイトルで、文化を理解することにとどまらず、実際に体験してみる参加型講演を行った。
22) 学術通訳 （国際学術大会）	令和元年6月6日～6月7日	韓国の光州女子大学と札幌大学の共催で行われた韓国心理運動学会の「2019 夏季国際学術大会とワークショップ」で日韓・韓日通訳を担当した。
23) シンポジウム登壇者 （シンポジスト）	令和元年11月21日	北海道大学とソウル大学が共催する「2019 SUN（ソウル大学）-HU（北海道大学） JOINT SYMPOSIUM（ジョイント・シンポジウム）」で「日韓両国が直面している共通課題の相互理解と協力」というタイトルで発表した。（開催場所：ソウル大学）
24) 講演講師	令和元年11月21日	大邱韓医大学の青少年家族相談学科の特別講師として「日本におけるいじめ・学校暴力の現状と課題—いじめ予防と対策を中心に」について講義を行った。
25) 学術通訳	令和2年11月	北海道医療大学先端研究推進センター・地域連携推進センターが共同主催するシンポジウム「当事者研究分野キックオフ 国際シンポジウム」は、日本・韓国の当事者研究者が集まり、両国の当事者研究の状況と学問としての広がりを模索した。
26) 講演講師	①令和2年9月3日 ②令和2年11月14日 ③令和3年3月23日	「Pangyao Youth Center」の特別講師として、遠隔で「日本におけるひきこもりの理解と示唆点」「ひきこもりの問題にどう対応するか」に関する特別講義を行った。この講義は、韓国の学校や相談施設のカウンセラー向けに提供され、最近増加傾向にあるひきこもりの問題について正確な理解を促し、また長期化と高齢化に伴う「8050」問題などに焦点を当て、示唆点を明らかにした。
27) 講演講師	令和4年1月17日	高大連携事業の一環として丘珠高校で特別講演を行った。日本の学生たちに関心が高い「韓国社会と文化：徴兵制度と若者文化」を中心に、最近話題になっている「BTS の兵役特例」について日本の学生たちの考え（「公正」とは）を聞かせてもらった。
28) 学術通訳	令和5年2月7日～2月8日	北海道医療大学先端研究推進センターと韓国障害友権益問題研究所の共催による「日韓農福連携セミナー」において、韓国と北海道での農福連携事業に関するプレゼンテーションで、日韓および韓日の通訳を担当した。
29) 学術通訳	令和5年2月16日	北海道医療大学（向谷地生良教授）と韓国江原大学の共催で行った当事者研究ワークショップにおいて「べてるの家の歩みと当事者研究」について通訳した。
30) コメンテーター	令和5年7月8日	北海道大学公共政策大学院と在札幌大韓民国総領事館が共催する「日韓未来フォーラム：ポストコロナ時代における日韓の少子高齢化と福祉政策：現状と課題」におけるコメンテーターを務めた。ポストコロナ時代における日本と韓国の協力和連携の重要性について強調し、共同の課題に対処するために情報共有やベストプラクティスの共有が必要であることを強調した。

事 項	年月日	概 要
31) 講演講師	令和 5 年 8 月 28 日	札幌韓国教育院で在日韓国人青少年を対象に、韓国の伝統文化に関する講演を行った。これらの若者たちは日本で生まれ育ち、韓国の伝統遊びを経験する機会が限られているため、韓国の伝統遊びを実際に体験することは非常に意義深いものであった。
32) 研修コーディネーター	令和5年9月4日～9月6日	韓国の「華城（ファソン）市童青少年精神健康福祉センター」「華城市精神健康センター」および「華城市保健所」の関係者と共に、札幌市の様々なひきこもり支援施設を見学した。札幌市子ども未来局からの積極的な協力で札幌市の「若者支援活動総合センター」「北海道ひきこもり成年相談センター」「札幌市ひきこもりサポートセンター」などを訪問し、関係者らと情報交換を行った。
33) シンポジウム登壇者 (シンポジスト)	令和5年11月28日～29日	韓国の華城（ファソン）市童青少年精神健康福祉センターが主催する国際シンポジウム「児童・青少年の精神健康の未来のためのビジョンと戦略」にシンポジストとして参加した。不確実性が増していく現代社会で若者の幸福は至上のものとなっている。このシンポジウムでは、イタリア・韓国・日本の専門家、実践者、政策立案者、そして提唱者が集い、強靱で繁栄する若い心を育む革新的なアプローチと戦略的な取り組みを探ってみた。各国の若者のメンタルウェルネスをサポートする最新の介入、技術の進化、そしてホリスティックなフレームワークについての議論し、早期介入戦略からケアへの平等なアクセスまで、我々は喫緊の課題を検討してみた。
34) 講演講師	令和5年12月6日	韓国の「相談人的資源開発委員会 ISC」が主催する「2023 青少年指導分野 HRD フォーラム」に講演者として参加した。札幌市における若者支援の先進事例を紹介し、そこから得た知見を共有した。 (https://www.youtube.com/watch?v=Fuippkv32ps&t=9992s)
35) 学術通訳	令和6年2月28日	北海道医療大学先端研究推進センターが『精神医療における対話実践の社会的実装を考える国際シンポジウムーオープンダイアログと当事者研究というインパクトー』を開催し、国内外の研究者、臨床家をお招きし、対話実践の可能性と社会的実装に向けた手掛かりを模索した行事に日韓および韓日の通訳を担当した。
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格、免許 1) 2級青少年指導士	平成13年11月26日	青少年関連施設や団体で青少年活動・福祉（相談）・保護に関わる青少年指導者を育成するための国家資格。（文化観光部：2001-21-065号）
2) 1級レクリエーション指導士	平成13年12月5日	健全な余暇や遊びの文化を定着するために指導者を育成するための民間資格。（社団法人韓国遊び文化協会：第2687号）
3) 高等学校助教諭免許	平成25年4月1日	北海道教育委員会（平成二五高臨第二〇号）
4) 社会調査士	平成30年6月1日	質的・量的社会調査に関する調査・分析能力を有するとともに、既存の調査についての問題点を的確に指摘し、その改善策等を提言できる能力があると認められる者に与える資格。（一般社団法人社会調査協会：第030313）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

事 項		年 月 日	概 要	
4 その他 1) 札幌大学卓球部 副顧問		令和3年4月1日 ～ 令和5年3月30 日		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 『現代中国の宗 教変動とアジアのキ リスト教』	共著	平成29年3月	北海道大学出版会	少子高齢化が急速に進行する韓国・中国・台湾をとりあげ、それぞれの国がこの課題の現状をどのようにとらえ、どのような社会保障と社会福祉の枠組みによって解決しようとするかを地域福祉の観点から考察した。まず各国の社会保障と社会福祉の概況を説明し、次に各国の社会保障と社会福祉政策がどのような経緯で発展し、現在の政策の動向にいたったのかを歴史的な観点から分析した。最後に、各国が直面している福祉の課題を取り上げ、今後の社会保障と社会福祉について展望した。第2章 「東アジアの福祉と家族」 (pp. 23-50) <u>金昌震</u> 、郭莉莉（北海道大学出版会）
2. 『アンビシャス 韓国語入門編』	共著	令和3年8月	北海道大学出版会	韓国語の学習を通じて「国際的に活躍できる人」になってほしいという願いを込めてテキストの執筆に取り組んだ。本書は大学や高校で初めて韓国語を学ぶ学生が、韓国語の文字や発音の基礎を学び、簡単な日常会話のトレーニングができる、シンプルかつ機能的なテキストである。ハングルが持つ本来の音をしっかりと学んで、実際の会話における発音の変化にも対応できるように構成されている。また、韓国という国への興味・関心、韓国語を学ぶ楽しさを高めていくために、社会・文化・歴史の話題を「コラム」という形で紹介した。 <u>金昌震</u> 、韓然善、趙恵真
3. 『ウェルビーイ ング社会学』	共著	令和4年9月	北海道大学出版会	東アジアにおける人口変動とその問題点について東アジア諸国の高齢化速度を比較しながら高齢化の進み具合による高齢者福祉について説明した。また、「福祉レジーム」論をベースに、先進諸国の社会保障の特徴を比較しながら、東アジアの社会保障の特徴を見て行く。第14章 「東アジアの高齢者扶養と社会保障」 (pp. 235-252) 櫻井義秀編、 <u>金昌震</u> 、伍嘉誠

著書，学術論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 4. 『東アジアのアクティブ・エイジング』	共著	令和7年4月	北海道大学出版会	韓国・大邱市における高齢者の「セカンドライフ」に焦点を当て、地域社会との関わりが主観的ウェルビーイングに与える影響を調査し、その研究成果をまとめた専門書である。高齢者が福祉施設で奉仕活動を行うことで、生活満足度やウェルビーイングの向上に寄与することがインタビュー調査から明らかになった。さらに、韓国および東アジアにおける高齢者ウェルビーイング研究の動向が把握できること、今後の高齢化対策に向けた施策の参考となる知見を提供する一冊。第2章「大邱市アクティブ・エイジングとソーシャル・キャピタル」(pp. 39-60) 櫻井義秀・清水春基編、金昌震
(学術論文) 1. 「大都市における子育て支援の現状と課題—札幌市事例を中心に—」	単著	平成25年12月	『北海道大学大学院文学研究科研究論集』第13号 pp. 437-451	札幌市における少子化の現状と問題について概説した後、家庭で子育てを行う親が直面する困難に焦点を当て、札幌市内の保育施設や子育て支援施設(札幌市子育て支援総合センターや児童会館など)をフィールドとして乳幼児の親を対象にした質的調査を実施した。この調査を通じて、保育・子育てに取り組む親が抱える子育てに関連する負担、ストレス、不安について明らかにし、児童虐待との関連性についても考察した。また、子育て支援施設内で形成される「ママ友」と呼ばれる親のコミュニティに焦点を当て、このグループがどのようにお互いに支え合って子育てを行っているかを観察し、互いの協力による子育て支援の機会について確認した。このような支援施設は、ママ友のコミュニティの形成を促進し、セーフティネットとソーシャルキャピタルを形成する役割があることが明らかになった。
2. 「少子社会における都市の子育て支援の比較研究—日韓の都市を中心として—」 (修士論文)	単著	平成26年3月	北海道大学大学院文学研究科	日本と韓国における子育ての現状を都市レベルで比較し、その分析に基づいて、少子化社会において必要な社会設計、福祉、政策の方向性について考察した。調査の対象は、札幌市の札幌市子育て支援総合センターと児童会館、そしてソウル市にある2つの保育情報センターを利用する保護者である。研究の中心には、コミュニティレベルでの子育て支援システムの再構築と社会的不公正の解消という課題があった。理論的枠組みとして、社会共通資本と社会関係資本の理論に基づき、子育て支援政策や子育て基金などを再評価することに焦点を当てた修士論文を執筆した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 3. A Study on Child Care Support from the Perspective of Network: The Case of Sapporo City	共著	平成26年4月	『日本文化研究』第 50 輯 (国際学会誌) pp. 21-43	論文①を発展させて投稿した論文では、札幌市における子育て支援の現状と、公的支援が不足している問題について深く考察した。特に、公共の支援施設で形成される「ママ友」の発展過程についてコミュニティ論の観点から分析した。また、子育て支援施設が生み出す「橋渡し型」と「結束型」の社会関係資本の特性と役割についても探求し、今後の子育て支援の改善に向けた政策提案を試みた。 <u>金昌震</u> 、姜永培。
4. 「少子化原因の背景に関する日韓比較」	単著	平成26年12月	『北海道大学大学院文学研究科研究論集』第 14 号 pp. 225-248	日韓の深刻な少子化の原因について、経済的、社会的、文化的な観点から詳細に分析した。経済的な観点では、経済成長のために推し進めてきた人口抑制政策の潜在的逆機能が顕在化され、現在は結婚、出産、育児に伴う経済的負担の増加が問題とされている。社会的な観点からは、かつて存在した多くの一次的集団、子どもの遊び仲間や子育て仲間の集まりが衰退し、地域社会の社会関係資本も減少していることが指摘される。文化的な観点からは、伝統的な家族規範と結婚規範の変化が子どもを持つことに対するこどもの価値に影響を与えていることが明らかになった。
5. 過疎地域における高齢者福祉とソーシャルキャピタル	単著	平成29年4月	『日本文化研究』第 62 輯 (国際学会誌) pp. 93-116	韓国で最も高齢化率が高い地域である全羅南道の莞島郡を調査地（農漁村）とし、過疎地域の高齢者余暇福祉施設の機能と役割について考察した。高齢者福祉施設には高齢者の集い場として自然に形成された「敬老堂」と、この「敬老堂」と積極的にネットワークを形成し、「敬老堂」に福祉資源を伝達する「老人福祉館」の機能に焦点を当てた。地域のセーフティネットとして機能する高齢者福祉施設はソーシャルキャピタルを生み出す場になっている。
6. 日韓両国社会における幸福への期待と危機への不安	共同	平成29年4月	日韓次世代学術フォーラム『次世代人文社会研究』第 13 号 pp. 323-343	日韓両国の生活満足度と幸福度について、OECD「Better Life Index（より良い暮らし指標）」を分析し、日韓両国の生活満足度や幸福度などの特徴を明らかにした。幸福度が低い理由を「圧縮された近代化」という社会学の観点から考察したパネルディスカッションの発言資料。 <u>金昌震</u> 、鄭恩州、Malenica、稲川翠。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 7. 「少子高齢化社会における日韓比較研究—子育て支援、高齢者扶養・介護を中心に—」 (博士論文)	単著	平成31年3月	北海道大学大学院文学研究科	少子高齢化が急速に進行する中で、保育・子育て支援と高齢者扶養・介護を、社会のあらゆる主体がどのように支えていくのかが、日韓両国の重要な課題になっている。この課題に対し、本論文では、「福祉レジーム論」「福祉の多元化論」を基本的な視座とし、日韓の保育・子育て支援と高齢者扶養・介護をめぐる福祉資源の供給構造を明らかにしたうえで、地域社会における保育・子育て支援、高齢者扶養・介護の改善に向けて、コミュニティ論や社会関係資本論の立場から可能かつ効果的な施策を考察し政策提言を試みた。そのために、日韓両国の少子高齢化の実態と対策を比較しながら、保育・子育てと高齢者ケアの二つの福祉領域において、地域による共助的な支援がどのように構築され、機能しているのかを日韓両国での参与観察と、利用者・運営者に対する量的・質的調査を通して把握した。最終的に地域を基盤にした子ども・高齢者ケアの両立を可能にする取組みについて考察した。
8. 「韓国における少子化と子育て支援—ソウル市の子育て中の親に対するインタビュー調査を通して—」	単著	令和2年10月	『札幌大学総合論叢』第50号 pp. 41-57	韓国都市部の少子化現象と子育て支援構造を検討した。ソウル市の子育て支援施設（育児情報支援センター）の利用者への半構造化インタビュー調査の結果より、(1)韓国の子育て支援は、家族・親族からの援助があつて、その次に民間保育・教育施設と育児トウミ（時間制ベビーシッター）の利用がある。国は、経済的負担を軽減する目的で、保育・教育の全面無償化、養育手当支給などを実施している。(2)日本と同様に家族力の低下が避けられない韓国では、政府（公助）による地域の子育て支援拠点になる開放的な「一定の空間」を設ける必要があるという結論を得た。
9. 「日韓の少子化対策の経緯と特徴」	単著	令和4年3月	『札幌大学女子短期大学部紀要』No. 70（通巻84号） pp. 65-87	日本と韓国における少子化対策の主要な政策を紹介し、これらの政策がもたらす成果と限界を明らかにした。その後、日韓の少子化対策の特徴を考察し、より効果的な政策な提案を試みた。韓国における現在の少子化問題は、雇用の不安定化、所得格差による若者の結婚・出産の遅延、女性の社会進出と仕事・家庭の両立の困難、さらに女性に偏っている家事や子育て負担の増加などが要因である。結論的「子育ての社会化」を促進する政策が進まない限り、理論的な議論に留まる可能性がある。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 10. 「韓国における高齢化の実態と対策」	単著	令和5年3月	『札幌大学女子短期大学部紀要』NO (71)、pp. 127-136	本論文では韓国の高齢化対策の変遷を概観した。現在までの高齢化対策がどのように変化したのか、また変化した対策にはどのような考え方が反映されているのか、年代別に策定された法律や対策を分析し、その結果から韓国の高齢化と対策の特徴を考察した。
(その他) (学会発表) 1. ネットワーク観点からの子育て支援 一札幌市の事例を中心に	単独	平成25年6月	第 10 回日韓次世代学術フォーラム国際学術大会	札幌市における少子化の現状と関連する問題について総括し、札幌市の子育て保育・支援施設で行った調査結果とそれに基づく考察を発表した。札幌市の子育て支援施設を利用する乳幼児の親たちは、育児・子育てから生じる喜びを感じつつも、その過程で負担、ストレス、不安を抱えていることが明らかとなった。さらに、このような子育てに伴う負担、ストレス、不安が家庭内で児童虐待につながるケースもあることが示唆された。調査によれば、保育・子育て支援施設を利用する際、親同士が「ママ友」として知り合い、お互いに子育てを支援し合う協力関係を築いていることが明らかとなった。このような施設は、子育てに悩む親たちを結びつけ、互いに支え合うコミュニティを形成していることを示唆している。地域の保育・子育て支援施設は、地域全体の福祉資源として、社会的な関係を促進し社会関係資本を構築していると言える。
2. 大都市における少子化と子育て支援の 日韓比較研究	単独	平成25年10月	第 82 回日本社会学会大会	主要な発表内容は、上述の学術論文①・②のまとめたものである。日本と韓国における都市レベルでの保育と子育ての現状を比較し、得られた調査結果をもとに、少子化社会における保育と子育て支援の社会設計、福祉政策の方向性について考察した。子育ての社会化は、「子どもの最善の利益を実現するために」および「社会全体で子どもを育てる」という理念を実践するものである。これは社会学の文脈では、子育てを社会全体で支えるという議論で「共同性」を重視していることと合致している。都市部の家庭における子育ての負担、不安、ストレス、児童虐待などの問題に対処し、社会全体がどのように支援できるかに焦点を当て、実践的な取り組みの成果を発表した。

著書，学術論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (学会発表) 3. 大都市における少 子化と子育て支援の 現状と課題—ソウル 市事例を中心に	単独	平成26年6月	第 62 回北海道社会学会 大会	ソウル市における保育と子育て支援 の現状を評価し、公的支援が不足し ている領域を特定しました。調査は ソウル市内の幼稚園と保育園をサポ ートする「保育情報支援センター」 を調査拠点とし、スタッフと利用者 に対するインタビュー調査を行い、 調査結果と考察した成果を発表し た。韓国では、親族による支援が保 育と子育てに依然として大きな役割 を果たしており、他国と比較して国 による公的支援の不足が目立つとい う問題が将来の課題となっている。
4. 韓国の高齢者福祉 と福祉施設の役割	単独	平成27年8月	第 12 回日韓次世代学術 フォーラム国際学術大 会	韓国で最も高齢化率が高い地域であ る全羅南道の莞島郡を調査地（農漁 村）とし、過疎地域の高齢者余暇福 祉施設の機能と役割について考察し た。高齢者福祉施設には高齢者の集 い場として自然に形成された「敬老 堂」と、この「敬老堂」と積極的に ネットワークを形成し、「敬老堂」 に福祉資源を伝達する「老人福祉 館」の機能に焦点を当てた。地域の セーフティネットとして機能する高 齢者福祉施設はソーシャルキャピタ ルを生み出す場になっている。
5. 日韓両国社会にお ける幸福への期待と 危機への不安	単独	平成28年6月	第 13 回日韓次世代学術 フォーラム国際学術 大会	日韓両国の生活満足度と幸福度につ いて、OECD「Better Life Index （より良い暮らし指標）」を分析 し、日韓両国の生活満足度や幸福度 などの特徴を明らかにした。幸福度 が低い理由を「圧縮された近代化」 という社会学の観点から考察した成 果を発表した。
6. 過疎地域における 高齢者福祉とソーシ ャルキャピタル	単独	平成28年7月	第 64 回北海道社会学会 大会	上述の学術論文⑤にまとめた内容を 中心に報告した。韓国で最も高齢化 率が進んだ全羅南道の莞島郡を調査 地（農漁村）として、過疎地域の高 齢者余暇福祉施設の機能と役割につ いて考察した。高齢者福祉施設には 高齢者の集い場として自然に形成さ れた「敬老堂」と、この「敬老堂」 と積極的に連携し、「敬老堂」に地 域の福祉資源を伝達している「老人 福祉館」の存在があった。地域のセ ーフティネットとして機能する高齢 者福祉施設はソーシャルキャピタル を生み出す場にもなっている。
7. 日韓次世代学術フ ォーラム指定討論	単独	平成29年6月	第 14 回日韓次世代学術 フォーラム国際学術 大会	国際学術大会に指定討論者として参 加し、「現代韓国社会における成人 子への親のサポートに対する社会的 イメージ—若年雇用問題と親のサポ ートに関する言説分析—」の発表に ついてコメントし、議論を行った。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (学会発表) 8. 韓国における高齢者福祉とソーシャルキャピタル	単独	平成29年11月	第 90 回日本社会学会大会	前述した研究「過疎地域における高齢者福祉とソーシャルキャピタル—韓国莞島郡における高齢者福祉施設を事例に」を更に発展させ、韓国の全般的な高齢化の状況と高齢者問題を概観し、その対応について日韓比較の観点から考察したものを報告した。
9. 日本における若者のキャリア教育の事例と示唆点	単独	平成31年1月	韓国青少年事業総連合会・ソウル特別市青少年施設協会「第 15 回青少年指導士研究会」	日本の学校ではキャリア教育プログラムが拡充されており、生徒たちに将来の選択肢を考える機会を提供している。また、企業や業界団体と連携し、若者に業界の実態を理解させるプログラムが増えている。最後に、カウンセラーや専門家の支援を通じて、若者は自分の適職を見つける手助けを受けている。若者たちのキャリア教育は、彼らの未来の幸福に直結しており、社会全体の発展に寄与する。若者たちの成長と成功を支えるために、キャリア教育への取り組みを強化し、彼らの夢と目標を実現できるようにサポートが急務である。
10. 日韓次世代学術フォーラム指定討論	単独	令和元年6月	第 16 回国際学術大会	国際学術大会に指定討論者として参加し、「博覧会と都市の空間編成—京都市岡崎を事例に一」の発表についてコメントし、議論を行った。
11. 大都市における高齢者福祉施設とソーシャルキャピタル (韓国大邱広域市の高齢者福祉施設における質的調査を中心に)	単独	令和2年9月	第 30 回日本家族社会学会大会	大邱広域市の高齢者福祉施設での調査を通じて、韓国全般の高齢化状況と高齢者問題についての概観を行い、特に都市部における高齢者施設の特性と役割をソーシャルキャピタルの観点から評価した。調査から、高齢者福祉施設において、「老人福祉館」と呼ばれる施設では専門職による公的な支援が提供され、地域の「敬老堂」という共助的な場が活性化された。ここでの「共助」の中から「互助」が生まれていることが確認され、高齢者セーフティネットとしての役割が担われている調査結果を報告した。
12. 韓国における青少年学の成立経緯と課題	単独	令和4年11月	明知大学校青少年指導学科30周年記念学術大会	青少年学は、韓国で青少年の発展と支援に焦点を当てた学際的な分野として設立された。当時、青少年に対するサポートとガイダンスを強化し、社会的課題への対処を助ける重要な役割を果たすことが期待されていた。しかし、これらの課題に対処し、質の高いプログラムを提供するために、教育機関、政府、専門家、関連団体との連携が不可欠であるため、地域連携が課題になっている。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (報告書) 1. 札幌市における子育て支援環境の調査研究	共著	平成25年3月	北海道大学大学院文学研究科社会システム講座	平成24年度の社会調査士6科目（「社会学演習」）として実施された、子育て支援に関する質的調査の報告書。「ネットワーク形成による子育て支援」pp. 49-66
2. 都市高齢者への共助的実践活動と世代間交流の研究	共著	平成27年9月	『都市高齢者への共助的実践活動と世代間交流の研究』北海道大学大学院文学研究科	公益社団日本生命財団の「平成26年度高齢社会若手実践的課題研究助成」を受け、北海道（札幌市・旭川市・江別町）、富山県（富山市）、東京都（小金井市）などのフィールドワークをした。都市における育児・子育てと高齢者ケアの共助的実践の活動と世代間交流に関する質的調査の報告書。郭莉莉・ <u>金昌震</u> ・遠山景広・工藤遥・小林真弓（担当部分） (1)「第2章調査結果Ⅱ：富山県富山市『しおんの家』」pp. 16-23 (2)「第3章 考察：地域における交流と役割について」)pp. 45-47
3. 日韓両国が直面している共通課題の相互理解と協力	単著	令和元年11月	『21st Century Sociological Imagination and Thinking: How can we facilitate the reconciliation and dialogue in East Asia?』pp. 75-91	北海道大学とソウル大学が共催する「2019 SUN（ソウル大学）-HU（北海道大学）JOINT SYMPOSIUM（ジョイント・シンポジウム）」の発表原稿。日本と韓国は、多くの共通課題に直面しており、これらの課題に対処するために相互理解と協力が不可欠である。環境問題、経済協力、安全保障と地政学的課題、文化交流と人的交流において相互理解と協力を進めることは、日本と韓国の双方にとって利益をもたらすだけでなく、地域と国際社会にもプラスの影響を及ぼす。双方の共通課題に取り組むことを通じて、信頼と協力の枠組みを構築し、持続可能な未来に向けた努力を強化することが必要である。